

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／その他資産（商品）
信託期間	無期限（2011年2月7日設定）
運用方針	主として純金上場信託（現物国内保管型）受益証券への投資を通じて、わが国の取引所における金価格の値動きをとらえることをめざします。純金上場信託（現物国内保管型）受益証券の純入比率は高位を維持することを基本とします。
主要運用対象	純金上場信託（現物国内保管型）受益証券を主要投資対象とします。
主な組入制限	受益証券発行信託の受益証券への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」の適用対象です。

詳しくは販売会社にお問い合わせください。

運用報告書(全体版)

三菱UFJ 純金ファンド

愛称：ファインゴールド



第4期（決算日：2015年1月20日）



受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、お手持ちの「三菱UFJ 純金ファンド（愛称：ファインゴールド）」は、去る1月20日に第4期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
URL:<http://www.am.mufg.jp/>

本資料の記載内容に関するお問い合わせ先

営業企画推進部
お客様専用フリーダイヤル

TEL. 0120-151034

(9:00~17:00、土・日・祝日・12月31日~1月3日を除く)

お客様のお取引内容につきましては、お取り扱いの販売会社にお尋ねください。

◆ 目次

三菱UFJ 純金ファンドのご報告

◇設定以来の運用実績	1
◇当期中の基準価額と市況等の推移	1
◇運用経過	2
◇今後の運用方針	5
◇1万口当たりの費用明細	6
◇売買及び取引の状況	6
◇利害関係人との取引状況等	6
◇組入資産の明細	7
◇投資信託財産の構成	8
◇資産、負債、元本及び基準価額の状況	9
◇損益の状況	9
◇お知らせ	10

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	基準価額			参考指数 (指標価格)		受益証券 発行信託の 受益証券比率	純資産額
		税込 分配	み 金	期 騰	騰 落	中 率		
(設定日)	円	円						百万円
2011年2月7日	10,000	—		—	3,573	—	—	346
1期(2012年1月20日)	11,217	0		12.2	4,113	15.1	99.5	1,448
2期(2013年1月21日)	13,182	0		17.5	4,878	18.6	99.9	1,591
3期(2014年1月20日)	11,324	0		△14.1	4,215	△13.6	99.9	2,374
4期(2015年1月20日)	12,953	0		14.4	4,868	15.5	99.9	3,255

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 当ファンドの参考指数(指標価格)は、東京商品取引所における金1グラム当たりの先物価格をもとに現在価値として三菱UFJ信託銀行が算出した理論価格です。参考指数(指標価格)は、日本における金の店頭小売・買取価格や海外で公表される取引価格とは異なります。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		参考指数 (指標価格)		受益証券 発行信託の 受益証券比率
	騰落率	騰落率	騰落率	騰落率	
(期首) 2014年1月20日	円	%		%	%
1月末	11,324	—	4,215	—	99.9
2月末	11,076	△2.2	4,102	△2.7	99.9
3月末	11,742	3.7	4,365	3.6	99.9
4月末	11,574	2.2	4,295	1.9	99.9
5月末	11,474	1.3	4,264	1.2	99.9
6月末	11,074	△2.2	4,118	△2.3	99.9
7月末	11,522	1.7	4,293	1.9	99.9
8月末	11,477	1.4	4,283	1.6	99.9
9月末	11,569	2.2	4,307	2.2	99.9
10月末	11,495	1.5	4,290	1.8	99.9
11月末	11,396	0.6	4,233	0.4	99.9
12月末	12,020	6.1	4,513	7.1	99.9
(期末) 2015年1月20日	12,289	8.5	4,603	9.2	99.9
	12,953	14.4	4,868	15.5	99.9

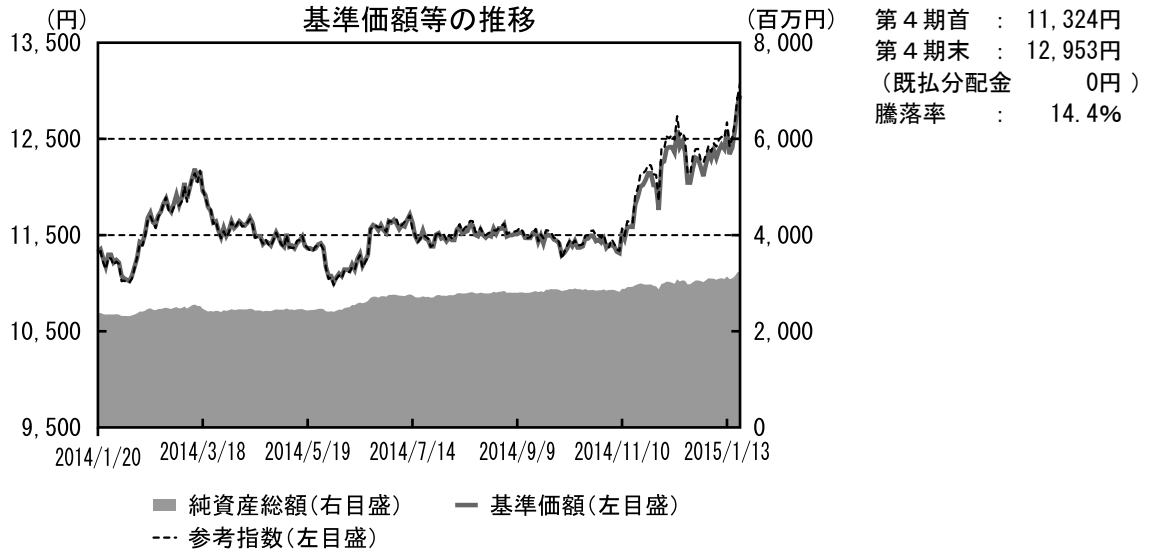
(注) 騰落率は期首比。

運用経過

当期中の基準価額等の推移について

(第4期 : 2014/1/21~2015/1/20)

基準価額の動き	基準価額は期首に比べ14.4%の上昇となりました。
---------	---------------------------



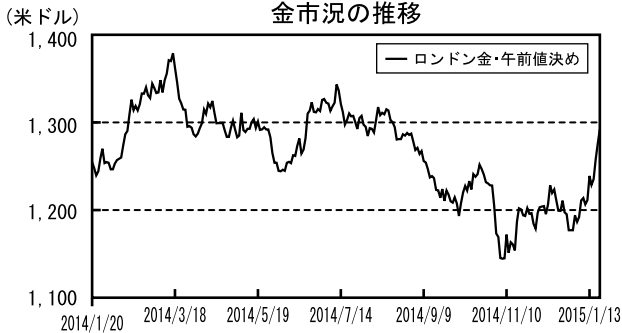
基準価額の主な変動要因

上昇要因

金価格が小幅に上昇したほか、大幅な円安・米ドル高となったことがプラスに寄与しました。
--

投資環境について

(第4期：2014/1/21～2015/1/20)



◎金市況

- ・期首から2014年8月中旬にかけては、寒波の影響を受けた米国経済の先行きへの懸念やウクライナや中東の地政学リスクの高まりなどを受けて安全資産とされている金の需要が高まり、「ロンドン金・午前値決め」は上昇しました。
- ・8月中旬以降は、米国の景気回復が鮮明になるなか、早期の金融緩和策の縮小観測が高まったことやエネルギー価格の下落によりインフレ懸念が後退したことなどから、金価格は下落基調で推移していましたが、2015年に入り、ギリシャの政治リスクの高まりや世界的な景気減速懸念などを受けて金価格は反発し、期を通じてみれば「ロンドン金・午前値決め」は小幅な値動きとなりました。



◎為替市況

- ・期首から2014年8月中旬にかけては、寒波の影響を受けた米国経済の先行きへの懸念やウクライナや中東などの地政学リスクの高まりなどを受けてリスク回避の動きが強まり小幅に円高となりました。その後、期末にかけては景気回復期待の高まりを背景に米国では金融緩和の出口戦略に興味移行していくなか、日本では追加の金融緩和策が決定されたことなどから大幅な円安・ドル高となりました。

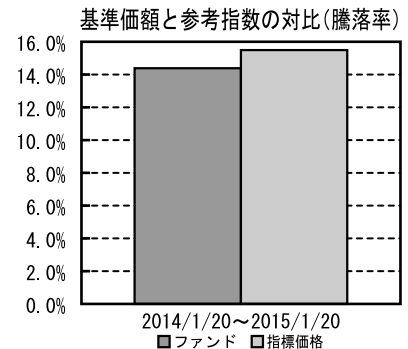
当該投資信託のポートフォリオについて

◎参考指数との比較

- ・金価格の上昇と大幅な円安の進展が奏功し、円ベースの金価格は上昇しました。その結果、参考指数は当作成期首と比べて15.5%の上昇となり、当ファンドの投資対象である純金上場信託「金の果実」は、14.9%上昇しました。
- ・当ファンドと参考指数との乖離は $\Delta 1.1\%$ 程度となりました。このうち、 $\Delta 0.6\%$ 程度は、参考指数と当ファンドの投資対象である純金上場信託「金の果実」の値動きが必ずしも一致しないことに起因するものです。また、 $\Delta 0.5\%$ 程度は、当ファンドにおいて一定のキャッシュを保有していることや信託報酬、取引コストなどによるものです。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

- ・当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。右記のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率との対比です。
- ・参考指数は指標価格です。



分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

【分配原資の内訳】

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第4期
	2014年1月21日～ 2015年1月20日
当期分配金 (対基準価額比率)	— —%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,952

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

純金上場信託「金の果実」を高位に組み入れることにより、わが国の取引所における金価格の値動きをとらえることをめざします。

○1万口当たりの費用明細

(2014年1月21日～2015年1月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 62	% 0.540	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(28)	(0.244)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
（ 販 売 会 社 ）	(28)	(0.242)	分配金・償還金・換金代金支払等の事務手続き、交付運用報告書等の送付、購入後の説明・情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(6)	(0.054)	投資信託財産の保管・管理、運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	0	0.003	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(0)	(0.003)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	62	0.543	
期中の平均基準価額は、11,559円です。			

(注) 各期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を各期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2014年1月21日～2015年1月20日)

受益証券発行信託の受益証券

銘 柄		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
国 内	純金上場信託（現物国内保管型）	千口 235	千円 994,987	千口 123	千円 534,633

(注) 金額は受渡代金。

○利害関係人との取引状況等

(2014年1月21日～2015年1月20日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A			売付額等 C		
	うち利害関係人との取引状況B	$\frac{B}{A}$	%	うち利害関係人との取引状況D	$\frac{D}{C}$	%
受益証券発行信託の受益証券	百万円 994	百万円 485	48.8	百万円 534	百万円 188	35.2

利害関係人の発行する有価証券等

種 類	買 付 額	売 付 額	当 期 末 保 有 額
	百万円	百万円	百万円
受益証券発行信託の受益証券	994	534	3,253

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJ信託銀行、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2015年1月20日現在)

国内受益証券発行信託の受益証券

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末		
	口 数	口 数	評 価 額	比 率
純金上場信託(現物国内保管型)	千口 573	千口 684	千円 3,253,180	% 99.9
合 計	口 数 ・ 金 額 銘 柄 数 < 比 率 >	573 1	684 1	3,253,180 < 99.9% >

(注) 比率および合計欄の<>内は、純資産総額に対する評価額の比率。

【ETF(上場信託)の概要】

ETFの直近の入手しうる有価証券報告書等から抜粋して作成しています。

ファンド名	純金上場信託(現物国内保管型)(愛称:「金の果実」)
内 容	金地金を信託財産とした信託に係る受益権を金融商品取引所に上場し、受益者の投資に資するよう受託者が主として金地金を信託財産として管理及び処分することを目的とするETFです。
指 標 価 格	金地金の現在価値を算出するために、東京商品取引所における金1グラムあたりの先物価格を、金のフォワードレートで現在価値に引き直した理論価格として受託者が算出します。
決 算 月	1月

【損益計算書】

(単位：千円)

(自 2013年1月21日 至 2014年1月20日)

営業収益	その他の事業収益	(注1) 9,341
	営業収益合計	9,341
営業費用	受託者報酬	105,987
	その他費用	9,596
	その他の事業費用	(注2) 154
	営業費用合計	115,738
営業損失(△)		△106,396
営業外収益	受取利息	9
	営業外収益合計	9
経常損失(△)		△106,386
税引前当期純損失(△)		△106,386
当期純損失(△)		△106,386

(注1) その他の事業収益とは、信託約款第23条に基づく信託財産の売却による利益であります。

(注2) その他の事業費用とは、信託約款第23条に基づく信託財産の売却による損失であります。

【信託財産を構成する資産の内容】

金地金

資産の種類	金地金
品 質	信託契約に定める所定の要件(注1)を満たすもの
質 量	6,869,911,574 g (2014年1月20日時点) (注2)
価 格	27,735,715,984円 (2014年1月20日時点) (注3)
保 管 場 所	サブ・カストディアンの倉庫(日本国内)

(注1) 純度が99.99%以上のものを指します。

(注2) 受託者は、信託報酬等の支払い等に必要限度で信託財産を構成する金地金を売却しますので、信託財産を構成する金地金の質量はかかる売却により減少します。売却される信託財産を構成する金地金の質量は、信託報酬等の額と売却時における信託財産を構成する金地金の市場価格によって異なります。また、信託財産は、追加信託により増加し、転換により減少する場合があります。

(注3) 計算期間末日(2014年1月20日)時点における金地金の総額(簿価)を記載しております。

○投資信託財産の構成

(2015年1月20日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
受益証券発行信託の受益証券	千円 3,253,180	% 98.6
コール・ローン等、その他	45,732	1.4
投資信託財産総額	3,298,912	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2015年1月20日現在)

項目	当期末
	円
(A) 資産	3,298,912,357
コール・ローン等	45,732,284
受益証券発行信託の受益証券(評価額)	3,253,180,000
未収利息	73
(B) 負債	43,156,955
未払金	20,868,890
未払解約金	14,362,731
未払信託報酬	7,884,399
その他未払費用	40,935
(C) 純資産総額(A-B)	3,255,755,402
元本	2,513,533,122
次期繰越損益金	742,222,280
(D) 受益権総口数	2,513,533,122口
1万口当たり基準価額(C/D)	12,953円

<注記事項>

①期首元本額	2,096,445,399円
期中追加設定元本額	1,825,371,466円
期中一部解約元本額	1,408,283,743円

②分配金の計算過程

		第4期
費用控除後の配当等収益額	A	15,025円
費用控除後・繰越欠損金補填後の 有価証券売買等損益額	B	259,330,652円
収益調整金額	C	435,313,019円
分配準備積立金額	D	47,563,584円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	742,222,280円
当ファンドの期末残存口数	F	2,513,533,122口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	2,952円
1万口当たり分配金額	H	－円
収益分配金金額	I=F*H/10,000	－円

○損益の状況 (2014年1月21日～2015年1月20日)

項目	当期
	円
(A) 配当等収益	15,025
受取利息	15,025
(B) 有価証券売買損益	368,963,618
売買益	423,161,061
売買損	△ 54,197,443
(C) 信託報酬等	△ 14,560,396
(D) 当期損益金(A+B+C)	354,418,247
(E) 前期繰越損益金	△ 47,508,986
(F) 追加信託差損益金	435,313,019
(配当等相当額)	(353,888,070)
(売買損益相当額)	(81,424,949)
(G) 計(D+E+F)	742,222,280
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	742,222,280
追加信託差損益金	435,313,019
(配当等相当額)	(353,888,070)
(売買損益相当額)	(81,424,949)
分配準備積立金	306,909,261

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みません。
- (注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
- (注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

*三菱UFJ投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (<http://www.am.mufg.jp/>) をご覧ください。

[お 知 ら せ]

- ①書面決議を行う場合の受益者数要件の撤廃を信託約款に記載し、信託約款に所要の変更を行いました。
(2014年12月1日)
- ②併合手続要件の緩和を信託約款に記載し、信託約款に所要の変更を行いました。
(2014年12月1日)
- ③買取請求の一部適用除外を信託約款に記載し、信託約款に所要の変更を行いました。
(2014年12月1日)
- ④運用報告書の二段階化について信託約款に記載し、所要の変更を行いました。
(2014年12月1日)
- ⑤新たに発行可能となる新投資口予約権を投資の対象とする有価証券に追加し信託約款に所要の変更を行いました。
(2014年12月1日)
- ⑥デリバティブ取引等のリスク量計算を規格化し、定量的に規制する旨を信託約款に記載し、所要の変更を行いました。
(2014年12月1日)
- ⑦2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315% (所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5% (法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。)) の税率が適用されます。